

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

西行法師、男なりける時、^①かなしくしける女の、三四ばかりなりけるが、重くわづらひて、^A限りなりけるころ、院の北面のものども、弓射て遊びあへりけるに、^Bいざなはれて、心ならず^②ののしりくらしけるに、郎等男の走りて、耳にものを^Cささやきければ、心知らぬ人は、^{*}なにとも思ひいれず。西住法師、いまだ男にて、源次兵衛尉とてありけるに、目を見合せて、「このことこそすでに」とうちいひて、人にも知らせず、さりげなく、いささかの気色もかはらで^Dゐたりし、^③ありがたき心なりとぞ、西住、のちに人に語りける。

〔十訓抄〕

5

*男なりける時||まだ出家前の時
*なにとも思ひいれず||気にも留めな
かった

問1 波線部①～③を訳せ。

問2 傍線部A～Dの主語を本文中の言葉で答えよ。

問3 二重傍線部「このこと」の内容を説明せよ。

問 4 波線部③「ありがたき心」とは誰のどのような振舞に対して西住が思ったものか、わかりやすく説明せよ。

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

今は昔、長能^{ながたふ}、道済^{みちなり}といふ歌よみども、いみじういどみかはしてよみけり。長能は、⁽¹⁾かげろふの日記したる人の⁽²⁾せうと、伝はりたる歌よみ、道済、信明^{しんあき}といひし歌よみの孫にて、いみじくいどみかはしたるに、鷹狩^{たかがり}の歌を二人よみけるに、長能、

あられ降る交野^{まいたの}の御野^{みの}のかり衣ぬれぬ宿かす人しなれば

道済、

ぬれぬれもなほ狩りゆかむ^{*}はしたかのうは毛の雪をうち払ひつつ

とよみて、おのおの、「我がまさりたり」と論じつつ、^{*}四条大納言のもとへ二人参りて、判せさせ^{*}たてまつるに、大納言のたまふ、「⁽³⁾ともによきにとりて、あられは、宿かるばかりはいかでぬれむぞ。ここもとぞ⁽⁴⁾劣りたる。歌がらはよし。⁽⁵⁾道済がは、さ言はれたり。末の世にも、集などにも⁽⁶⁾入りなむ」とありければ、道済、⁽⁷⁾舞ひかなでて出でぬ。長能、もの思ひ姿にて出でにけり。さきさき何事も長能は上手^{うはて}を打ちけるに、このたびは本意^{ほんい}なかりけりとぞ。

* 交野の御野 || 淀川の左岸、今の枚方市付近にあった皇室領の遊獵地。
 * はしたか || 鷹の一種。鷹狩に用いる。
 * 四条大納言 || 藤原公任。
 * たてまつる || 謙讓の意を表す補助動詞。

問1 傍線部(1)は、具体的に誰のことか、漢字で記しなさい。

問2 傍線部(2)の意味を記しなさい。

問3 傍線部(3)は何と何のことか、記しなさい。

問4 傍線部(4)は、どういうところが「劣りたる」と言っているのか、具体的に説明しなさい。

問5 傍線部(5)の「道済が」と「は」との間には、省略されている語があります。その語は何か、漢字で記しなさい。

問6 傍線部(6)を品詞に分け、活用のあるものは活用形を記しなさい。

問7 傍線部(7)の行動には、どのような気持ちが表れているか、その気持ちを二字で記しなさい。
